

第327回定例県議会提出

地方独立行政法人奈良県立病院機構中期目標

奈良県

(平成29年2月27日提出)

目次

項目	頁
前文	2
中期目標の期間	2
基本的な考え方	3
<u>I. 患者にとって最適な医療の提供</u>	
1. 全職員が一体となって中期目標を達成すること	4
2. 患者が満足する医療サービスの提供	5
3. 断らない救急の実現	6
4. 質の高いがん医療	7
5. 周産期医療体制の強化	8
6. 小児医療体制の整備	9
7. リハビリテーション機能の充実	10
8. 高齢者を対象とした医療体制の整備	11
9. 医療安全・院内感染の防止	12
10. 新病院整備の推進	13
<u>II. 県民の健康維持への貢献</u>	
1. 県内の医療機関との連携・協力体制の充実	14
2. 県内の医療レベル向上に向けた支援	15
3. 災害医療体制の強化	16
4. 県民への医療・健康情報の提供	17
5. 県が実施する健康長寿のまちづくりへの支援	18
<u>III. 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保、育成</u>	
1. 最高レベルの医の心をもった人材の確保、育成	19
2. 最高レベルの医の技をもった人材の確保、育成	20
<u>IV. 自立した経営</u>	
1. 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立	21
2. 経営に対する責任感をもって業務改善に取り組む組織文化の醸成	22
3. 医療制度等の変化への迅速・柔軟な対応と自立した財務運営	23
4. 業務運営の効率化と財務内容の改善	24

前文

県立奈良病院、県立三室病院及び県総合リハビリテーションセンターは、これまで長きに渡り、それぞれの医療機能に応じて地域の医療機関との連携を図り、本県の医療提供体制における中核的病院として、重要な役割を担ってきました。県立奈良病院は、将来にわたって県民が安心して地域で暮らすことができる医療体制を構築するため、平成28年度中の完成を目指し、移転整備を進めているところです。

県民が必要とする医療を安定的に提供していくためには、県立奈良病院の移転整備を見据え、3病院が連携・協力して新たな医療機能を十分発揮していく必要があります。そのためには、経営形態を見直し、しっかりとした経営基盤のもとで診療機能を整え、人材を確保、育成していくことが急務となっています。そこで今般、経営の責任と権限を明確化し、県全体の医療の発展に貢献していけるよう、地方独立行政法人奈良県立病院機構（以下「県立病院機構」という。）を設立することとしました。

法人化を契機として、県立奈良病院は「奈良県総合医療センター」に、県立三室病院は「奈良県西和医療センター」に名称を変更し、県総合リハビリテーションセンターと看護専門学校(奈良校・三室校)、また、新たに設置する教育研修センターと併せて5つの組織を県立病院機構が一体的に運営していくこととなります。

この中期目標は、県が県立病院機構に対して、「患者」、「県民」に“親切的な医療”を提供できるよう、「職員」を育て、地域の医療機関と連携し、本県の医療レベルの向上に貢献することを求めるものであり、「患者にとって最適な医療の提供」、「県民の健康維持への貢献」、「最高レベルの医の心と技をもった人材の確保、育成」及び「自立した経営」を柱立てとして、具体的な目標と成果指標を定めました。

特に、患者にとって最適な医療を提供していくためには、医療人材の確保と育成が根幹となるため、医療従事者の教育を総括的に担う「医療専門職教育研修センター」を法人内に独立した組織として設けます。法人職員だけでなく、県内の医療機関の医療従事者の資質向上に資することを期待します。

今後、県立病院機構が、県内の医療機関との緊密な連携・協力のもと、県民の期待に応える質の高い医療を継続的に提供し、生涯にわたって県民の健康の確保及び増進に寄与していくことを強く求めます。

中期目標の期間

平成26年4月1日～平成31年3月31日

基本的な考え方

「患者」、「県民」に“親切的医療”を提供できるよう、「職員」を育て、地域の医療機関と連携し、奈良県の医療レベルの向上に貢献する。



患者にとって最適な医療の提供

県民の健康維持への貢献

最高レベルの医の心と技をもった人材の確保、育成

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

1. 全職員が一体となって中期目標を達成すること

【期待する成果】

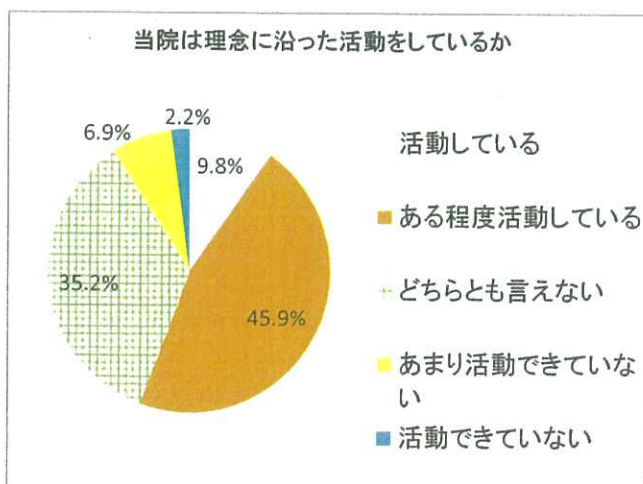
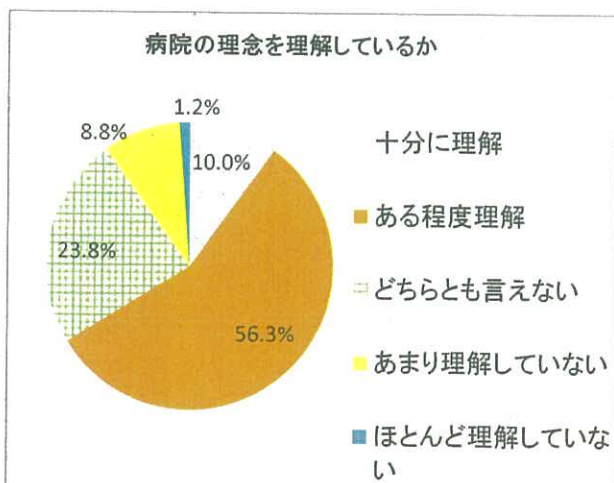
- ・県と法人が連携し、中期目標の達成を図る

職員の中期目標・中期計画の理解度

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
調査	常に前年度より改善させる			100%を目指す

現状

○病院の理念理解度



※H25年度職員満足度調査結果より

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

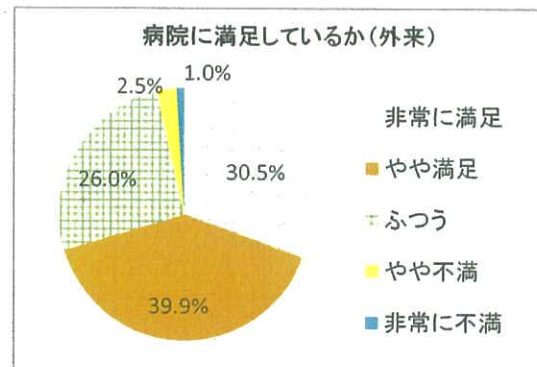
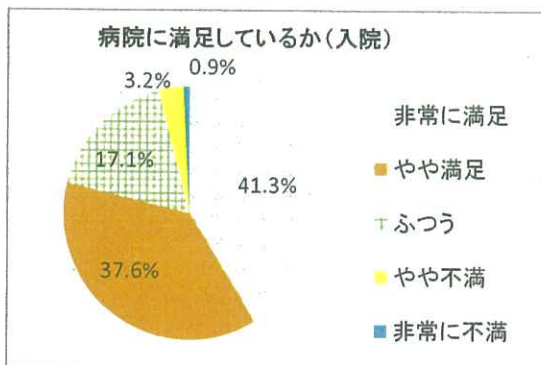
2. 患者が満足する医療サービスの提供

【期待する成果】

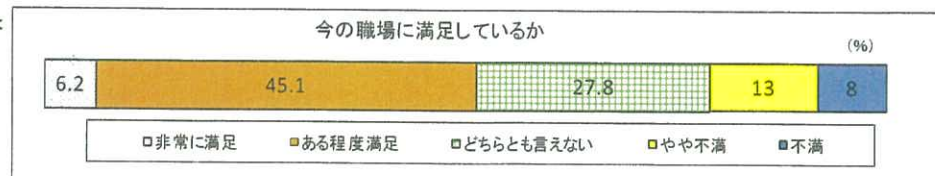
- ・患者の不満足は病院経営の糧と考え、患者意見を把握する
- ・患者意見について、具体的な要因分析を実施するとともに、継続的な改善に努める

現 状

○患者満足度調査結果



○職員満足度調査結果



中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

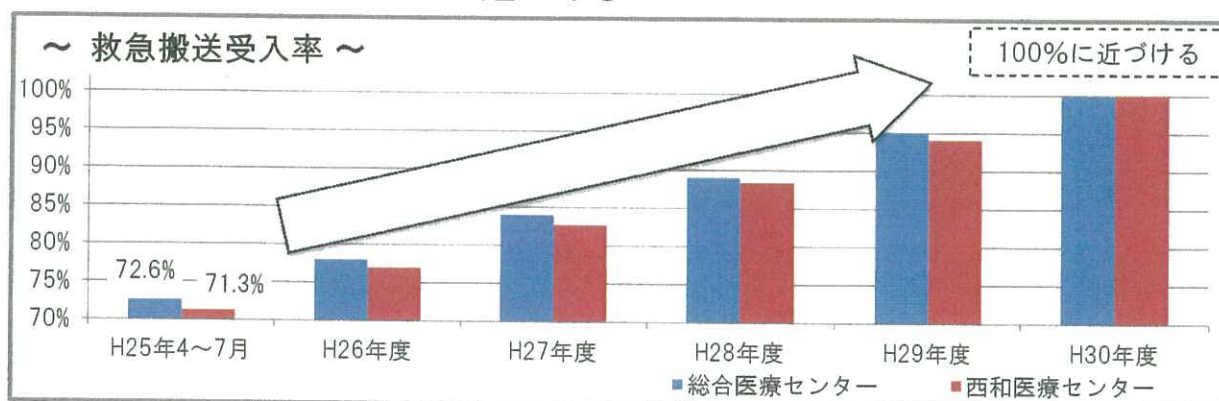
中項目

3. 断らない救急の実現

救急搬送ルールに則った救急患者を100%受け入れる

【期待する成果】

救急搬送受入率 100%に近づける



現 状

○緊急度の高い患者(心肺停止、脳卒中、急性心筋梗塞、重症外傷等の重篤疾患)の受入先確保に要する病院照会回数が4回以上の割合 13.2% (H23年)

※県地域医療連携課調べ

○全国平均と比べて119番通報から病院収容までの所要時間が長い

救急搬送の平均収容所要時間

H24年 奈良県 43.1分
全国平均 38.7分

※消防庁「平成25年度版 救急・救助の現況」より

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

4. 質の高いがん医療

県内でがん治療を希望する県民を100%対応するため、
県内の他の医療機関と連携する

【期待する成果】

院内がん登録患者数を増やす					(1~12月実績)
H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
1,007人	常に前年度より改善させる				50%増

現 状

- 他府県と比べ、県外の医療機関を利用する人の割合が高い
入院15.4%(全国第3位)
外来15.8%(全国第4位) (厚生労働省 平成23年患者調査)
- がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、緩和ケア専門医が
県下に少ない
放射線治療専門医 11名(H24.11.19現在)
がん薬物療法専門医 6名(H25. 1.10現在)
緩和ケア専門医 0名(H24. 4. 1現在)

出典: 第2期奈良県がん対策推進計画

(関係学会等の公表データから県とりまとめ)

※ 県立病院の現状

総合医療センターに放射線治療専門医1名のみ

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

5. 周産期医療体制の強化

- ・ 県立医科大学と連携してハイリスク妊婦・新生児の県外搬送ゼロに貢献する
- ・ 安心してお産ができる体制を整備する

【期待する成果】

ハイリスク妊婦の県内搬送率 (1~12月実績)

	H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
総合	91.2%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

新生児の県内搬送率 (1~12月実績)

	H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
総合	99.2%	水準維持				100%に近づける

西和医療センターの産科再開

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
西和	産科再開準備		再開		

現状

- 県民アンケートにおいて、「安心できる周産期医療体制」の項目については、重要性は高いが、満足度が低いという結果がでている (H25年度調査結果)
- ハイリスク母体の県内搬送の割合 91.2%
- 新生児の県内搬送の割合 99.2% (H24.1~12月実績)
- NICUの後方病床が不足しておりNICU稼働率が常に高い状況

総合医療センターのNICU・GCU病床利用率

	H22年度	H23年度	H24年度
	76.7%	91.3%	91.2%

※H25. 4. 1現在

NICU 9床
GCU 6床

医師数 産婦人科 9名
新生児集中治療室 7名

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

6. 小児医療体制の整備

- ・急性期を中心とした小児医療の拠点病院として、重症の小児患者を確実に受け入れる
- ・小児の発達障害の診療及びリハビリテーション

【期待する成果】

小児患者の救急搬送受入率

	H25年4～7月	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	82.4%	常に前年度より改善させる				100%に近づける
西和	85.7%					

現 状

- 小児科二次輪番時の患者のうち、入院が不要で帰宅した患者の割合
84.9%(H24年度)

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

7. リハビリテーション機能の充実

- ・ 高度・専門的なリハビリテーション医療を充実させる
- ・ 急性期の疾病治療・リハビリテーションから、回復期のリハビリテーションを連続的、一体的に提供する体制を構築する

【期待する成果】

急性期病院在院日数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	12.2日	常に前年度より改善させる				11日
西和	14.7日					12日

在宅復帰率

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ	87.8%	常に高い水準で維持				

現 状

- 総合医療センター・西和医療センターからリハセンに転院する患者は少ない
総合医療センターからリハセンへ 6名
西和医療センターからリハセンへ 15名 (H24年度実績)
- 総合医療センター・西和医療センターとリハセンが一貫したリハビリを行えば、リハビリ効果は上がる
- 発達障害児の増加は著しいが、県内の受入施設は不足している
保護者から訓練回数(頻度)の増、訓練終了後の継続支援等の要望が強い
- 早期リハビリテーション実施件数は、人口10万人あたり437.1と、全国値441.7に比べやや少ない

早期リハビリテーション実施件数

	県全体	全国値
件 数	6,171	561,247
人口10万人あたり	437.1	441.7

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

8. 高齢者を対象とした医療体制の整備

- ・ 県と協力してロコモティブシンドロームの認知度を上昇させる
- ・ 糖尿病の医療連携体制の充実

【期待する成果】

- ・ 3病院でのロコモティブシンドローム認知度を80%にする
(H26年度以降は、病院で調査を実施)
- ・ 糖尿病専門医の確保、糖尿病専門診療科の設置

現 状

- 平成42年までに運動器関連疾患の患者は急増する
- ロコモティブシンドロームの認知度
H24年度 26.6%
※日本整形外科学会「ロコモティブシンドローム生活者意識全国調査」より
- 政府は、健康日本21(第二次)において、H34年度ロコモティブシンドロームの認知度80%を目標にしている
- 県内で
糖尿病が強く疑われる患者数 約101千人
糖尿病の可能性が否定できない者 約149千人
(H19厚生労働省 国民健康・栄養調査から推計)
- 県内に糖尿病専門医が少ない
専門医数 奈良県 26名
奈良病院 0名
三室病院 0名
※(社)日本糖尿病学会ホームページより(H25.11.11確認)

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

9. 医療安全・院内感染の防止

医療安全管理体制を整備する

【期待する成果】

患者満足度「安心して医療を受けられたか」

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
入院	85%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

患者満足度「安心して医療を受けられたか」

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
外来	75%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

現 状

○病院ごとに医療安全対策を実施

インシデント発生件数(レベル0~1)

	H22年度	H23年度	H24年度
総合	1,326件	1,260件	1,175件
西和	941件	871件	841件
リハ	—	—	162件

アクシデント発生件数(レベル2~5)

	H22年度	H23年度	H24年度
総合	62件	72件	45件
西和	34件	23件	14件
リハ	—	—	0件

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

10. 新病院整備の推進

【期待する成果】

- ・平成28年度中、新総合医療センター完成
- ・新西和医療センターの整備
- ・看護専門学校統合校の整備
- ・3病院共通の電子カルテシステム構築

現 状

- 新総合医療センター
- | | |
|---------|--------|
| 平成25年秋頃 | 造成工事着手 |
| 26年秋頃 | 建築工事着手 |
| 28年度中 | 完成予定 |

中期目標

大項目

Ⅱ. 県民の健康維持への貢献

中項目

1. 県内の医療機関との連携・協力体制の充実

【期待する成果】

紹介率

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	52.3%	常に前年度より改善させる				80.0%
西和	66.1%					

逆紹介率

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	74.4%	常に前年度より改善させる				80.0%
西和	77.8%					

現 状

- 地域医療支援病院の指定を受けている

H24年度	紹介率	逆紹介率
【総合医療センター】	<u>52.3%</u>	<u>74.4%</u>
【西和医療センター】	<u>66.1%</u>	<u>77.8%</u>
- 地域医療連携パス
 - ◆ 脳卒中地域連携パス
 - ・パス発行状況 265件 (H24.2末～H25.3末) * 急性期病院から報告のあった数字
 - ・参加医療機関

急性期	<u>15</u>
回復期	<u>25</u>
維持期	<u>14</u> (H25.3.31現在)
 - ◆ がん地域連携クリティカルパス 運用件数 112件 (H24年度実績)
 - ◆ 虚血性心疾患地域連携パス (中南和地域を中心に運用)
 - ・パス発行状況 67件 (H23.7～H25.1末)
 - ・参加医療機関 131 (H25.6.4現在)

中期目標

大項目

Ⅱ. 県民の健康維持への貢献

中項目

2. 県内の医療レベル向上に向けた支援

【期待する成果】

県が設置する地域医療支援センターによる医師派遣機能等の一翼を担うこと

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
医師、看護師等の確保・養成		派遣ルールの確立		実施

県内の医療機関の医療従事者の短期・長期研修等受け入れ

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受入準備		試行		本格実施

現状

○ 地域医療機関の医療従事者の研修会参加者数

H24年度	総合医療センター	<u>150人</u>
	西和医療センター	<u>68人</u>

Ⅱ. 県民の健康維持への貢献

中項目

3. 災害医療体制の強化

【期待する成果】

災害発生時の受入・派遣要請に応じる

- ・ 災害発生時の受入体制の強化
- ・ 災害発生時のスムーズな医療スタッフの派遣

現 状

- 災害拠点病院の指定を受けている [総合医療センター]
- 災害派遣医療チームが整備されている
- 医療救護班の派遣体制が整備されている
- 新型インフルエンザ等感染症の受入体制はできているが入院体制は不十分である

【県内全災害拠点病院におけるDMATチーム整備数】

H25.1現在 **11チーム**

※出典：奈良県保健医療計画(H25.4)

中期目標

大項目

Ⅱ. 県民の健康維持への貢献

中項目

4. 県民への医療・健康情報の提供

臨床指標を含む情報の公開・発信

【期待する成果】

県民向け公開講座の開催回数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
3回	6回	6回	6回	6回	6回

現 状

○臨床指標の情報発信が不十分

Ⅱ. 県民の健康維持への貢献

中項目

5. 県が実施する健康長寿のまちづくりへの支援

【期待する成果】

- ・ 平松周辺地域や西和地域で県が実施するまちづくりの取り組みに積極的に参加する
- ・ 平松周辺地域や西和地域でのマイ健康カードの運用（H29実施）

現 状

- 県立奈良病院跡地活用プロジェクト
 - ・ 跡地活用の枠組みの検討
 - ・ 多職種連携協議会準備会の開催
 - ・ まちづくり講演会、協議会の開催
- 西和地域健康まちづくりプロジェクト
 - ・ まちづくり準備会開催
 - ・ 健康ステーション検討

中期目標

大項目

Ⅲ. 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保、育成

中項目

1. 最高レベルの医の心をもった人材の確保、育成

【期待する成果】

患者満足度「患者さんの気持ちを理解しようとしたか」

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
入院	86%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

患者満足度「患者さんの気持ちを理解しようとしたか」

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
外来	76%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

職員満足度「仕事にやりがいを感じているか」

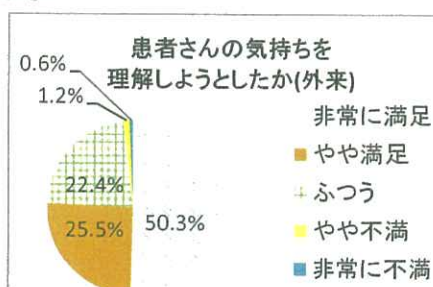
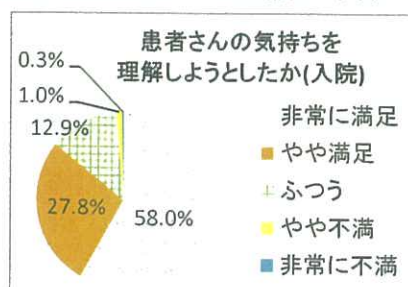
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	60%	常に前年度より改善させる				90%以上

職員満足度「WLB 私生活は配慮されているか」

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	51%	常に前年度より改善させる				90%以上

現状

- 患者への接遇対応が十分ではない
- 育児や介護を前提とした休業制度はあるが、期間が限定されており、職員個人のライフワークステージに応じたきめこまかい勤務形態がない
- 院内保育の開設日や夜間保育の実施に制限がある
- 病児の保育がない
- 育児等で離職していた職員を現場復帰する支援が十分ではない
- 患者満足度調査結果



中期目標

大項目

Ⅲ. 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保、育成

中項目

2. 最高レベルの医の技をもった人材の確保、育成

【期待する成果】

初期臨床研修医のマッチング率

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
100%	100%	100%	100%	100%	100%

後期研修医数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
4人	8人	16人	30人	30人	30人

専門医数

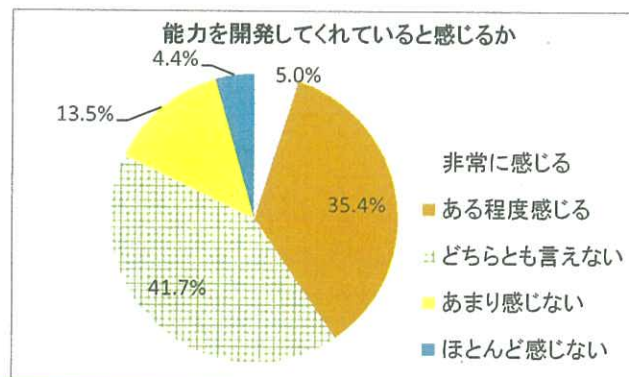
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
常に前年度より増加させる					

認定看護師数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
13人	18人	27人	33人	35人	38人

現 状

- 後期研修医を専門医とするまでの長期研修カリキュラムが確立していない
- 医療の高度化に対応し高度な医療水準を維持するための院内研修体制及び職員への支援が十分ではない
- 職員満足度調査結果



中期目標

大項目

IV. 自立した経営

中項目

1. 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立

【期待する成果】

県と法人が連携し、中期目標の達成を図る

現 状

- 経営責任が不明確
- 医療現場の変動、変革に柔軟に対応できる意思決定体制ではない

中期目標

大項目

IV. 自立した経営

中項目

2. 経営に対する責任感をもって業務改善に取り組む組織文化の醸成

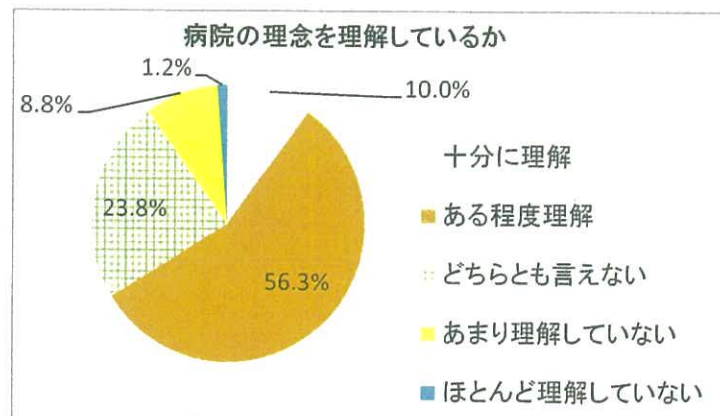
【期待する成果】

職員の中期目標・中期計画の理解度

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
調査	常に前年度より改善させる			100%を目指す

現状

○病院の理念理解度



※H25年度職員満足度調査結果より

中期目標

大項目

IV. 自立した経営

中項目

3. 医療制度等の変化への迅速・柔軟な対応と自立した財務運営

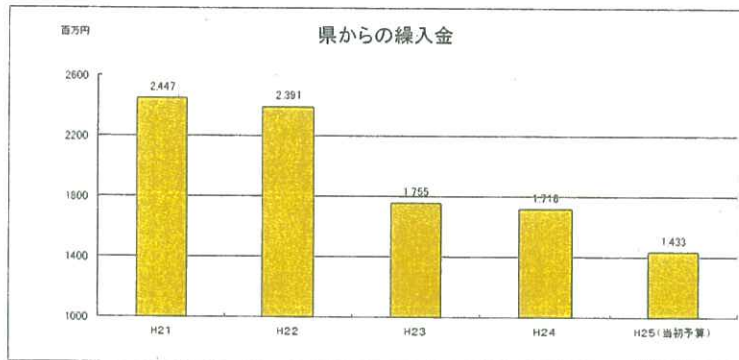
【期待する成果】

経常収支比率

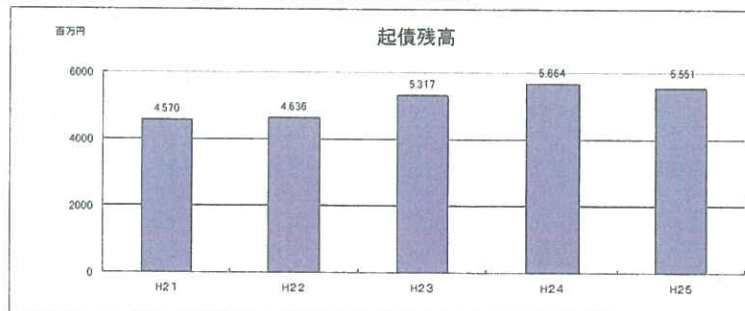
H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
102.2%	常に前年度より改善させる				10%増

現 状

- 独立採算の経営ができていない
3病院で県からの繰入金 約14億円（H25年度予算）



- 多額の起債残高 約55億円（H25年度末残高）



IV. 自立した経営

中項目

4. 業務運営の効率化と財務内容の改善

【期待する成果】

奈良県立病院機構改革プランを着実に実行する
 同改革プランで示した経営改善目標を達成することはもとより、不断の経営努力により、さらに業務運営を効率化し、経費削減を断行するとともに、自立的な経営を行うための収入を確保し、財務内容の改善を図る
 新総合医療センターが中心となる機構組織内の再編・ネットワーク化を進め、持続可能な医療提供体制を確保するための具体的な経営方針をとりまとめる
 同改革プランをはじめ、経営改善全般の取組を実効あるものとするため、組織内に実施体制を確立するとともに、県と連携して計画的な進捗管理を行う
 県として、新総合医療センターに対して特別の財政支援を行う場合には、病院機構の同改革プラン等の実行を通じた経営改善の取組実績を前提とする

現 状

<奈良県立病院機構の決算推移(全体)>

(単位:百万円)

	H 2 6 決算	H 2 7 決算	H 2 8 決算見込
医業収益	19,411	20,261	21,043
入院収益	14,145	14,898	15,282
外来収益	4,889	4,979	5,327
医業費用	22,155	23,041	23,530
給与費	11,926	12,347	12,955
材料費	5,491	6,004	5,999
経費	3,227	3,408	3,412
減価償却費	1,443	1,220	1,087
医業収支	▲ 2,745	▲ 2,780	▲ 2,487
県運営費負担金	760	1,905	1,857
その他の収益	355	263	270
経常収益計	20,527	22,429	23,171
償還利息計	65	53	42
その他の費用	486	522	582
経常費用計	22,707	23,615	24,153
経常利益・損失	▲ 2,180	▲ 1,186	▲ 982
臨時利益・損失	▲ 741	▲ 1,068	▲ 776
収益計	20,622	22,458	23,171
支出計	23,544	24,713	24,929
当期純損失	▲ 2,921	▲ 2,254	▲ 1,758
累積赤字	▲ 2,921	▲ 5,175	▲ 6,933

※H28決算見込は、平成29年1月31日時点で算出したもの